

安全情報(2)

蜂刺され

これから暑さが厳しくなります。緑の雇用の研修生をはじめ林業従事者にとって猛暑への対応と併せて、「蜂刺され」への注意と適切な対応が必要な時期になります。

蜂刺されについては厚生労働省、林野庁で情報をいただいておりますが、巣の発見、蜂の飛来を予測する、攻撃から避けることは林内での作業中では困難です。

皆様からいただいた蜂の事前対応、刺された後の対応などを参考にさせていただきたいと思っております。

蜂刺されに対する不安点として、

- どこで刺されるかわからない
- 刺されるとき衝撃が大きい(バチンとムチ叩かれたような刺激がある)
- 刺された後の対応がわからない
- アナフィラキシーショックが心配

などが聞かれます。

緑の雇用では各地方とりまとめ機関、安全指導機関等へ蜂刺され災害の報告をお願いしており、4年度は17件の報告を頂きました。

現場作業中に蜂からの攻撃を察知し、避けることは難しいと思われませんが、

作業にあたっての準備、攻撃を受けた際の対応、刺された後の処置について、予備知識を持つておくことが重要です。

1. 事前対応として

(1) 蜂アレルギーの把握

- ・ 研修生への抗体検査の実施
- ・ 抗ヒスタミン軟膏、殺虫スプレー、蜂毒吸引機、エピペンの携行
(エピペンは医師の処方が必要)

(2) 緊急体制の整備

- ・ 緊急時の搬送先病院を事前に把握
- ・ 緊急連絡先を車両、休憩舎、事務所等に掲示

(3) その他

- ・ 誘引捕殺法などにより現地の蜂の生息状況を予測
- ・ 防蜂網、防蜂手袋で防護して作業

(ファン付き作業服も蜂の針がとどかないことから有効と言われます)

- ・ 蜂を刺激するような衣類 (黒地・毛皮等)、匂い (ヘアスプレー、香水等) 等を避ける

○ 誘引捕殺について

ペットボトルに酒、お酢、砂糖を混合して誘引剤をつくり作業予定箇所の周囲に設置 (地域などによっては配合方法が異なる)

蜂の情報を把握する方法であり、蜂の捕獲状況からその地域の蜂の状況を予測する方法です。蜂の撃滅や蜂の巣の発見には期待できませんが、捕獲状況で巣が近くにあることや蜂の種類などが予測されます。

2. 蜂の巣を見つけたとき、蜂の攻撃を受けたとき

- ・ 蜂の巣はもとより、蜂がえさを運んでいるのをみかけたとき等は、近寄らない
- ・ 蜂が近づいてきたときは、速やかに危険区域から遠ざかる
- ・ 蜂の攻撃を受けたらすぐにその場から離れる
- ・ 周囲の人に蜂の情報を知らせる

- 蜂の攻撃を受けたときに「じっとして動かない方がいい」と動かないでいた方は、10 か所以上刺されました。(木のようにじっとしていると蜂は刺さないで離れると書かれた書籍もありましたが逃げることです)

3. 蜂刺され後の対応として

- ・ 蜂に刺された場所は木陰や沢などに退避し、毒針や毒囊が残っている場合は直ちに引き抜く
- ・ できるだけ早く蜂毒吸引器で毒を吸い出す
- ・ 刺されたところをきれいな水で洗い流し、抗ヒスタミン軟膏を塗る
- ・ 同僚、指導員が速やかに手を貸し、反応が出ていなくても車両等へ搬送する (移動や搬送は担架が望ましい)
- ・ アナフィラキシーショックが疑われる場合は、速やかにエピペンを使用する
- ・ 速やかに緊急の搬送病院へ連絡、輸送を行う
- ・ 蜂情報について経営体へ報告し、他の職員にも周知する。

- 刺された方を日陰で休ませてしばらく様子を見る場合も聞かれますが、速やかに同僚等と下山し、医療機関を受診する。

刺された方は絶対に運転しない。(熱中症と蜂刺されは命に影響することに注意)

添付資料

令和4年度「緑の雇用」事業の労働災害 (蜂刺され)

蜂刺され災害を防ごう (林野庁ホームページ)

(蜂刺され対策については、林災防、各自治体のホームページなどでも紹介されております。)

蜂の巣の写真 (近寄らないとわからない)

